



2010年4月1日

**農場管理を“見える化”し、食の安全を確保する  
日本の業界統一 GAP 「JGAP2010」  
穀物版（コメ等）の開発メンバーを決定**

本日、日本 GAP 協会は技術委員会の委員人事を別紙の通り発表しました。技術委員会は、JGAP 基準の開発を掌る機関です。

JGAP は、農林水産省が推奨する農業生産工程管理手法の一つです。民主党の政策集においても、食の安全を確保する手法として GAP 普及が述べられています。

日本の標準的な GAP である JGAP は世界的にも高い評価を得ており、先進的な JA や農場で導入が進んでいます。その基準内容は国産農産物の安全性向上と日本農業の競争力向上の両方に影響があります。

JA 等では JGAP を団体導入する事例も増えています。仕入原料管理や調達先管理が食品業界のキーワードとなっている昨今、JGAP 認証は「信頼できる農場（調達先）の目印」としても活用されており、農業界のみならず農産物流通業界や食品メーカーにも深く関係するものです。

- \* 日本 GAP 協会は、日本における本格的な GAP（Good Agricultural Practice）の普及を推進している民間非営利団体です。農業界と農産物流通業界が共同で運営しております。
- \* JGAP とは、生産段階における農産物の安全確保等を目的とした農業生産工程管理手法です。青果物・穀物（コメ等）・日本緑茶（荒茶）の生産農場用のものがあります。

窓口担当者 武田／横溝 Tel 03-5215-1112 Fax 03-5215-1113

(FAX 頂ければ回答致します)

取材希望

御社名	部署名	御名前
		電話番号
住所		FAX 番号

日本 GAP 協会 技術委員 穀物部会

穀物部会	佐藤智浩	JA山形おきたま	生産販売部米穀課/JGAP指導員
	千葉丈	個人としての参加	現：全農いわて営農技術課/JGAP指導員
	樋口恭子	新潟県長岡地域振興局	農林振興部普及指導員/JGAP指導員
	坂野勝則	(株) ミツハシ	精米事業本部精米販売部/JGAP審査員補
	田村浩至	(株) ダイエー ((株)消費経済研究所)	品質管理センター チーフテクノロジスト/JGAP技術委員会青果物部会委員
	福永庸明	イオン (株)	イオンアグリ創造 (株) 取締役本部長

\* 技術委員会 穀物部会は、JGAP2010 穀物の基準策定を行う機関です。

\* JGAP2010 は、2010 年中の発効を目指して開発されています。開発の方向性は下記の 2 点です。

- 日本の農業環境・社会環境に最も適した GAP 基準とする。
- これまで異なっていた流通各社の GAP や PB 取引基準について、その共通部分に限り JGAP2010 の互換性・整合性を高める努力をする。

